

令和3年上半期分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和3年上半期分について、輸出額は「自動車の部分品」、「自動車」などが増加したことから、対前年同期比27.1%の増加となった。また、輸入額は「有機化合物」などが減少したものの、「石油製品」、「アルミニウム及び同合金」、「絶縁電線及び絶縁ケーブル」などが増加したことから、同12.1%の増加となった。その結果、差引額は3兆6,476億円（同40.0%の増加）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同期比による
また、★印は全ての期を通じて過去最高を示す（1979年上半期以降のデータを基礎として比較）

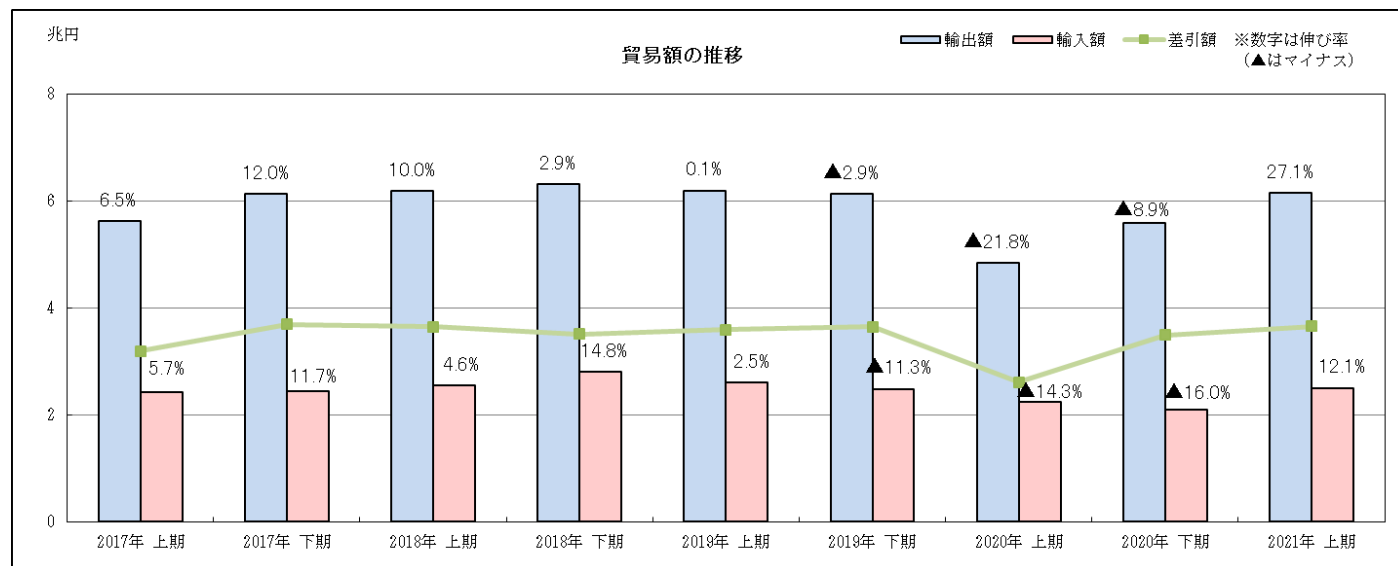
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	6兆1,464億円	+27.1%	2兆4,988億円	+12.1%	3兆6,476億円	+40.0%
	4期ぶりの増加		4期ぶりの増加		3期ぶりの増加	
管内（名港シェア）	9兆5,241億円	(64.5%)	4兆6,470億円	(53.8%)	4兆8,770億円	(—)
全国（名港シェア）	39兆8,573億円	(15.4%)	38兆8,723億円	(6.4%)	9,850億円	(—)

注）名古屋港における輸出額は、2011年下期以降（20期連続） 全国港別第1位（空港を含む）
注）名古屋港における差引額は、1998年上期以降（47期連続） 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出増加	(1) 自動車の部分品	1兆0,448億円	+41.9%	+6.4	6期ぶりの増加
	(2) 自動車	1兆5,201億円	+22.1%	+5.7	3期ぶりの増加
輸入増加	(1) 石油製品	717億円	+98.0%	+1.6	5期ぶりの増加
	(2) アルミニウム及び同合金	1,305億円	+35.9%	+1.5	5期ぶりの増加
	(3) 絶縁電線及び絶縁ケーブル	★ 1,338億円	+33.2%	+1.5	4期ぶりの増加
減少	(1) 有機化合物	490億円	▲39.7%	▲1.4	3期ぶりの減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。